

核被害の「差別性」に着目した調査の実施

核兵器が初めて使用されてから、今年で 80 年。広島、長崎に投下された原爆によって、14 万人以上が亡くなり、生き残ることができた人々も、被爆者として生きていくことを強いられました。これまで、核兵器は無差別に人々を殺傷し、耐え難い苦痛を与える非人道兵器であるというナラティブ（語り）が形成されてきました。

しかし、原爆投下後だけでなく、被爆後の人生にまで目を向けたとき、果たしてその被害の形は無差別といえるのでしょうか。近年の国際的な議論では、核被害をジェンダーの視点から再考する取り組みに関心が集まっています。私たちは、ジェンダーの視点からの広島、長崎を中心とした日本の被爆者の経験を語ることが非常に少ないと課題意識を持ち、戦後日本の社会構造の中のジェンダー格差に着目した調査を行ないました。広島（回）長崎（1 回）、東京（随時）でのフィールドワークと文献調査を主な手法とし実施し、その結果を、2025 年 3 月に米国連本部で開催された核兵器禁止条約の第 3 回締約国会議に作業文書として提出し、本会議内やサイドイベントでの発言、アドボカシー活動を積極的に行いました。

核兵器禁止条約 第 3 回締約国会議でアドボカシー（啓発）活動

フィールドワークや聞き取り、先行研究のレビューなどを経て、3 月に開催された核兵器禁止条約の第 3 回締約国会議に合わせて、作業文書「ジェンダーに配慮したあらゆるシステムの構築を促進する：被害者援助におけるジェンダー主流化

（TPNW/MSP/2025/NGO/5）」（別添 1）を提出しました。特に強調したいことは、戦後の父長制が根強く残る日本社会において、経済的なレジリエンス（回復力）に、ジェンダー格差が見られたことです。また、女性に留まらず、先住民、セクシュアルマイノリティなど、これまで周縁化してきた人々の平等で完全な参加を推進する必要があります。だからこそ、ジェンダーを生物学的性差にとどまらず、社会的、文化的な性差として認識し、核被害者援助を行うべきだと提言を作成しました。

GeNuine からは代表の徳田が渡航し、国連軍縮研究所らが主催するサイドイベントと、本会議でのジェンダーに関するセッションで、これらの成果を世界と共有する機会を得ました。多くの方が、ジェンダーの視点で被ばくの影響を考える上で非常に重要な取り組みだと評価してくださいました。ジェンダーの視点を持ち、国際的に連携するユース団体が日本で生まれたことを歓迎する雰囲気にも励されました。ジェンダーの視点から、核兵器の非人道性への理解を深める一端を担う、そんな手触りを感じた瞬間でした。



レベッカ・ジョンソンさんと



本会議内で発言

1年活動を通して

核兵器の問題は、自分との接点を見つけることが難しい、という声をよく聞きます。他方で、ジェンダー平等に関心を持つ人々は、若い世代を中心に増え続けています。ジェンダーというレンズで核兵器を考えるといつても、核兵器の非人道性や、意思決定のジェンダーバランスなど多様な論点があります。今までにない語り口で核兵器について語り、発信していくことを通して、日本でも核兵器をなくそうとする仲間が少しづつ増えていることを日々実感しています。

核兵器禁止条約の特徴は、交差性（インターフェクショナリティ）の視点に裏打ちされた核兵器の非人道性を求心力として、国際社会での核兵器廃絶の声を高めてきた点にあります。だからこそ、日本でも、ジェンダーをはじめ多様な視点で核兵器を考えていくことが、核兵器廃絶を達成するためにも必要なのではないでしょうか。日本、そして国際社会の舞台を繋ぎながら、挑戦を続けていきたいです。最後に、私たちの活動を信じ、ご支援くださった核なき世界基金のみなさまに感謝申し上げます。

メディア掲載実績(一部)

- 西日本新聞(共同通信)「核兵器禁止条約 私の視点」(2025年3月2日)
<https://www.nishinippon.co.jp/item/1321579/>
- KTNテレビ長崎「特集 核兵器廃絶×ジェンダー新たな視点」(2025年3月5日)
- 共同通信「核禁会議、日本の若者が発言 新たな世代、頼もしく」(2025年3月7日)
<https://nordot.app/1270639702296609491?c=302675738515047521>
 - (掲載紙)西日本新聞、東奥日報社、北海道新聞、中日新聞、信濃毎日新聞、沖縄タイムス社、新潟日報、山陰中央新報、佐賀新聞、愛媛新聞等
- 朝日新聞「核とジェンダー」「核抑止への抵抗」核禁会議、現地入りの若者は」(2025年3月8日)<https://www.asahi.com/articles/AST380TQBT38PITB002M.html>
- 中国新聞「核抑止に対抗する 第3回締約国会議から <下> 市民の行動に「希望の光」」

2024 年度核なき世界基金報告
作成者 GeNuine 代表 徳田悠希

(2025 年 3 月 16 日)

- 週刊金曜日(4 月 25 日号)「若者たちの核兵器禁止条約締約国会議—世界でつながり、核のない世界を—」
- ふえみん 2025 年 5 月 5 日号 <https://www.jca.apc.org/femin/interview/20250505tokuda.html>
その他多数